

目次

序

ホームデンティスト・プロフェッショナルの6つの柱 2

第1章 歯周基本治療の理論をメンテナンスに活かす.. 11

1 病因論の歴史から 一組織の回復からバランスへの改善一 12

1. **1970年代**▶ 治療目標は歯周組織の回復だった 12

2. **現在**▶ 治療目標は歯周組織と細菌の均衡の回復と維持 13

2 イラストで理解する歯周基本治療 14

1. 健康な歯周組織 15

2. 急性炎症(歯肉炎) 16

3. 慢性炎症(歯周炎) 18

4. 慢性炎症性組織(不良肉芽) 20

5. まとめ:歯周炎の感染源 22

6. SRP後の治療 23

第2章 メンテナンスに不可欠な「人を診る歯科診療」... 27

1 視野を広げて疾患を捉える 29

1. 情報量を多くして、より正しい診断を行おう! 29

2. 歯周炎の部位特異性を知る 33

3. 患者の感受性の違いを知る 35

2 患者の人生を考える 38

1. 患者の生活の質を落とさない、無理強いをしない 38

3 人の気持ちを診る 44

1. 治療方針を患者に押し付けない 44

目次

第3章	メンテナンスの実際	49
1	メンテナンスの進め方	50
1.	メンテナンスの間隔	50
2.	メンテナンスの時間	50
3.	メンテナンスの手順	51
4.	より心地よく、より安全なメンテナンスのために	58
5.	メンテナンスを患者に継続してもらうための9つのヒント	60

第4章	メンテナンスの目的と効果	63
1	メンテナンスの目的	64
1.	メンテナンスの5つの目的	64
2	メンテナンスによって得られること	73
1.	より確実なメンテナンスができるようになる	73
2.	患者から多くの事を学ぶことができる	73
3.	防という意識を通じて、患者の身体全体の予防意識が高まる	73
4.	次世代など社会的に予防意識が高まる	74
3	その他、メンテナンスで将来起き得ること	75
1.	様々な事情で、メンテナンスを離れることも想定しておくべき	75
	メンテナンスでのチェック項目リスト	76
1.	口腔内チェック項目リスト	76
2.	口腔内以外チェック項目リスト	76

第5章 疾患タイプ別の歯周基本治療とメンテナンス... 81

誌上体験

【症例1】29年間メンテナンス(初期から中等度)	82
【COLUMN】メンテナンスにおけるサブカルテの重要性	85
【症例2】25年間メンテナンス(重度歯周炎)	88
【症例3】26年間メンテナンス(重度歯周炎)	94
【症例4】21年間メンテナンス(重度歯周炎)	100
【COLUMN】診療室を離れても役立つメンテナンス	103
【症例5】22年間メンテナンス(重度歯周炎)	104
【症例6】30年間メンテナンス(重度歯周炎)	108
【症例7】32年間メンテナンス(一部重度歯周炎)	111
【症例8】25年間メンテナンス(重度歯周炎)	118
【COLUMN】第二大臼歯をもっと残したい!	123

第6章 高齢者のメンテナンスと留意事項 127

1 高齢者のメンテナンスの注意事項	128
1. 高齢になると起きてくることと、その対応	128
2 全身疾患や服用薬を把握するための工夫をしよう	134
1. 服薬カルテのすすめ	134
2. 事例から	137

目次

第7章 メインテナンスの新課題—セメント質剥離を知る— 141

対談 下野正基先生×岡賢二、藤木省三

1 長期メインテナンスで見逃せないセメント質剥離 142

1. セメント質剥離例① 急速な骨吸収が進んだ 143
2. セメント質剥離例② セメント質の剥離片の形成と移動 145
3. セメント質剥離例③ 典型的なデンタルエックス線画像 150
4. セメント質剥離例④ 大きな剥離片を除去後、状態は安定 153

2 解説:セメント質剥離の背景と病理 156

第8章 メインテナンスの効果を検証する 167

1 データベースでメインテナンスの効果を検証する 168

1. 初診時年齢が50歳以上60歳未満の45人の平均値の検証 168

2 メインテナンスの結果を分ける因子とは 172

1. 典型例に見るメインテナンスの実態 172

3 メインテナンスの効果を最大限にするには 182

- [COLUMN] 初診患者の喫煙率の変化から考えられること 183

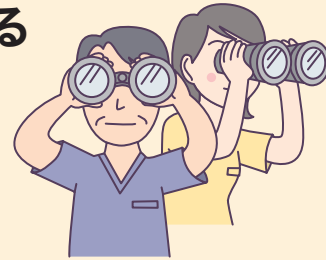
おわりに 184

memo：先生へ
ここももう少しメンテナンスと
からめた表現にされては？

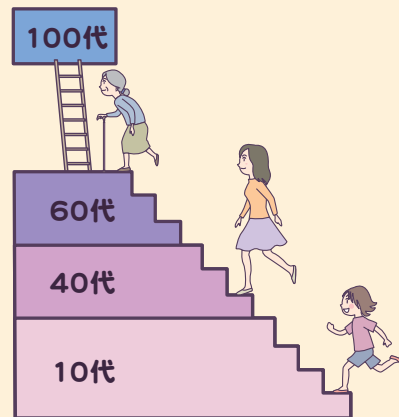
HOME DENTIST PROFESSIONALシリーズの第1巻、第3巻では歯周治療の考え方を病因論に沿って解説を試みました。しかし、ホームデンティストとして患者の人生を支えるためには単なる病気を治すという考えだけでは事足りません。第4巻では、「歯周疾患を治せる」知識、技術を持ちながら「人」を診ることを伝えたいと思います。

「人を診る」ことは口腔の局所だけを診るのではなく、以下の3つの角度から患者を診ていくことです。

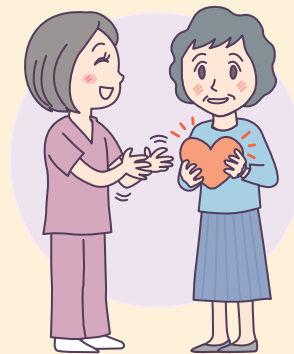
角度 1 ▶ 視野を広げて疾患を捉える



角度 2 ▶ 患者の人生を考える



角度 3 ▶ 人の気持ちを診る



3 その他、メンテナンスで将来起き得ること

1. 様々な事情で、メンテナンスを離れることも想定しておくべき

私達は、担当している患者達がずっときてくださるつもりで毎回メンテナンスを行っています。しかし、小さい頃に来ていた子供たちもいずれ就職したり結婚したりして離れていきます。成人の方でも転勤や転居されることもあります。

このようなことはいつ起こるかわかりません。なので、頭の片隅にいつか離れていくことを想定しておくべきです。その時に大切なのは、他の医院に移っても自分自身でコントロールできるように、基本的なことは伝えておくことです。ブラッ

シングなど患者にあわせたホームケアの方法、フッ化物配合歯磨剤の使い方、飲食習慣の注意などの基本が習慣になっていれば、大きな問題は起こらないだろうと思います。

雑誌や広告では、次々と新しい清掃用具や口腔ケアの商品が開発され紹介されています。一見良さそうに見えても手に入らなければ役には立ちません。そこで、私達はあまり特殊なことは避けて、どこに行ってもできる手技や手に入るものを中心に指導を行っています。

いつでもどこでもできる予防の基本を習慣化することが
メンテナンスの重要な目的の一つ

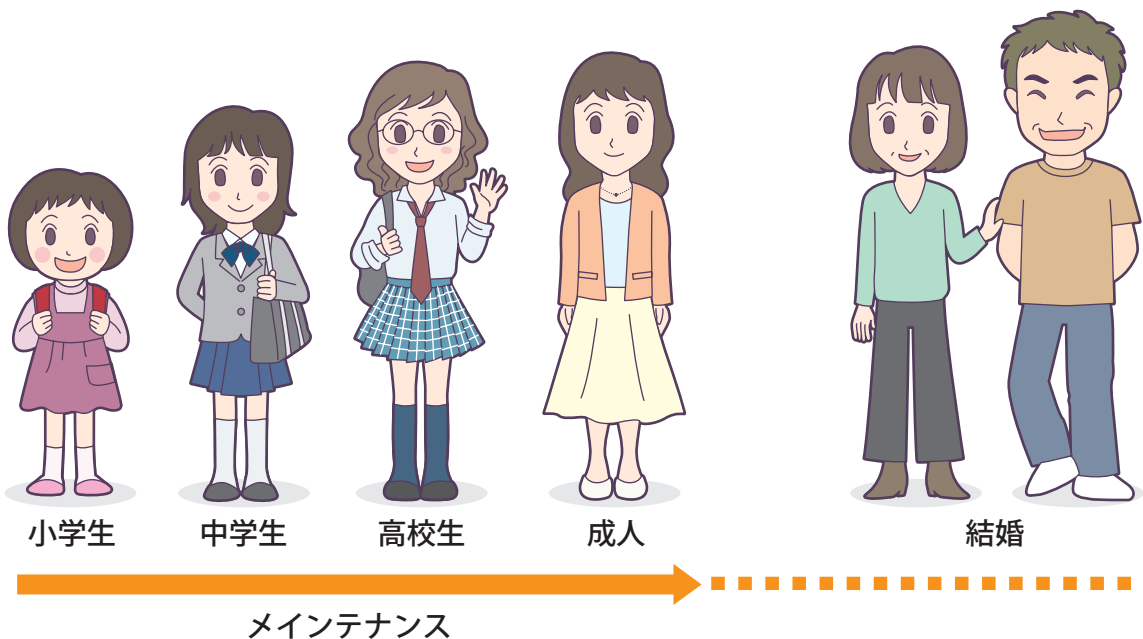


図000 一生涯メンテナンスができれば理想的だが、現実には厳しい。ブランクコントロール、食生活、フッ化物の活用の基本をメンテナンス中に習慣化しておくことが、患者のその後の人生に大きく寄与する。大事なのは、いつでもどこでもできることを優先すること。